

大学研究力強化ネットワーク

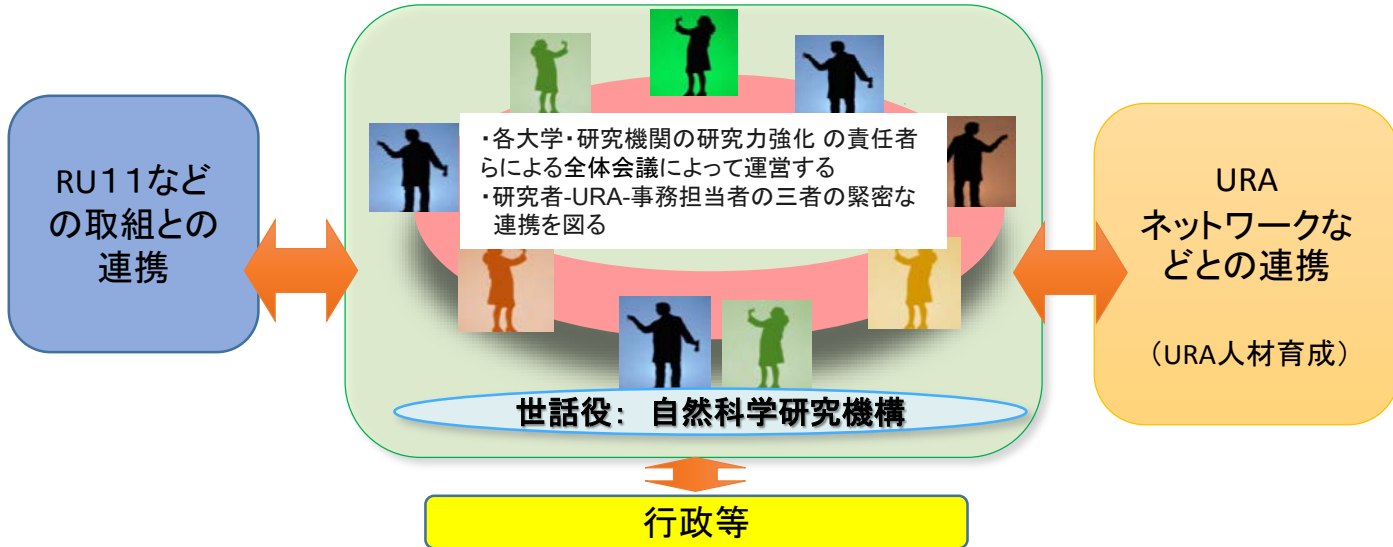
大学の研究力強化・支援機能の拡大を図る

趣旨

大学の研究力の向上により、イノベーションの加速、地域社会との連携、経済の発展への寄与が期待されているところです。本ネットワーク参加大学は、研究大学としての基盤を強固にすることはもとより、研究大学としての力を結集し、先導して日本の大学の研究力を一層高めていく責務を負っています。

そのためには、より良い研究環境を整備し、そのパフォーマンスを最大化することが求められています。各大学の個性・特徴を尊重しつつ、研究者-リサーチ・アドミニストレーター(URA)-事務担当者の三者の緊密な連携のもと、大学・研究機関の枠を超えて、大学の研究力強化及び支援機能の拡大を図る方策に関する議論と情報交換を行う必要があることから、「共同して行うべきところは共同して行う」という発想のもと、相互の連携の推進を図り、また、必要な施策について行政等に働きかけるなど、個々の大学の研究力強化に資する“大学研究力強化ネットワーク”を設立しました。

大学研究力強化ネットワーク



組織

<構成機関>

文部科学省「研究大学強化促進事業」(22機関)に採択された機関を中心として、既に「リサーチ・アドミニストレーター(URA)を育成・確保するシステムの整備」事業に取り組んでいる機関(15機関)など、大学の研究力強化を推進する機関に呼びかけ、賛同を得られた機関で構成する。

<全体会議>

“大学研究力強化ネットワーク”には、各機関における研究担当理事または研究力強化に責任を有する者等(1名ずつ)による『全体会議』を置き、ネットワークの運営を総括し、共通する課題について討議し、必要に応じて政策提言などに結びつける。

また、全体会議の運営、そのために必要な経費等は、原則として自然科学研究機構によって担われるが、運営に関するアドバイザーボードとして、5-6校程度の運営委員(当面、任期は2年程度を想定)による運営委員会を設置する。

第一期運営委員：岡山大学、熊本大学、筑波大学、奈良先端科学技術大学院大学、自然科学研究機構

<タスクフォース>

また、研究力強化に関する具体的な取り組みについては、テーマ別のタスクフォースを置き、参加機関間で協議・連携する場とする。個々のタスクフォースは原則2年程度の期間を定めて設置される。

- (1) 海外拠点を活用し国際プレゼンス向上・国際連携を促進するためのタスクフォース
- (2) 大学ランキング指標タスクフォース

<プラットフォーム>

自然科学研究機構や参加校が整備した共同利用できるツールやプラットフォームをネットワークで共有する。

- (1) 国際情報発信に関するプラットフォーム

<メーリングリスト>

参加機関間での情報交換を円滑に行うため、メーリングリストを整備する。

大学研究力強化ネットワーク 参加機関

[北海道大学](#)
[筑波大学](#)
[千葉大学](#)
[東京医科歯科大学](#)
[東京農工大学](#)
[電気通信大学](#)
[新潟大学](#)
[金沢大学](#)
[福井大学](#)
[信州大学](#)
[名古屋大学](#)
[名古屋工業大学](#)
[豊橋技術科学大学](#)

[神戸大学](#)
[岡山大学](#)
[広島大学](#)
[山口大学](#)
[九州工業大学](#)
[熊本大学](#)
[奈良先端科学技術大学院大学](#)
[自然科学研究機構](#)
[高エネルギー加速器研究機構](#)
[情報・システム研究機構](#)
[首都大学東京](#)
[東京女子医科大学](#)



● 国際連携に関するタスクフォースの活動

(座長: 自然科学研究機構)

「国際連携に関するタスクフォース」は、日本と海外の大学等研究機関及び研究者の間での国際研究協力を促進・強化する為、主に研究支援人材を対象とした実践的なトレーニング環境の構築と、技術および知識シェアの充実を目的に活動しています。

国内及び海外で推進する3つの中心的活動:

- 知識・技術共有の促進
技術、知識、経験の共有や、実践的トレーニングを通じて、URA等の研究支援人材の能力向上を目指します。
- 大学・研究情報の広報と収集
大学研究力強化ネットワーク参加機関と資金提供機関の海外オフィスなどが連携して、海外における研究広報を推進し、国際連携の構築を加速します。
- グローバルコミュニケーションの促進
研究者、大学等研究機関、および研究マネジメント人材間のグローバルコミュニケーションを活性化するとともに、意欲的な研究管理者の間で知の循環を生み出し、国際連携の促進を支える基盤を構築します。この目的を達成するため、海外の研究マネジメント人材との間の連携に力を入れ、後述のように『コミュニケーション窓口』を開設しています。

最新の活動状況等に関するお問い合わせ : contact_at_runetwork.jp (_at_ は@に置き換えて下さい。)

● 大学ランキング指標タスクフォースの活動

(幹事校：岡山大学)

『適切な指標で、自組織の研究力強化の推進を！』

本タスクフォースにおいては、以下に掲げる「大学ランキング指標に関する基本的考え方」を共有しつつ、その考察を行うことで、大学・研究機関や行政府、ランキング指標作成企業・研究機関などに対して、真に大学評価や研究力強化促進に寄与する提言をしています。

「大学ランキング指標に関する基本的考え方」(抜粋)

- 世界大学ランキングは、各大学が教育研究力について認識し自己改革に結びつけるためのツールのひとつであり、単なる“順位ありきの大学・研究機関間の競争”であってはならない。
- 大学ランキングに用いられている数多くの客観的評価指標については、その数値・内容を十分に理解・判断したうえで抽出(選択)し、大学・研究機関の総合力を測るひとつのベンチマークとして、自組織の研究力強化促進へ活用することが重要である。
- 特に、人材育成という観点では、既存の大学ランキングにおける評価指標が十分でないと感じられる。
- 一律的な指標をセットとして個々の大学の評価にすべからず当てはめることは避けるべきである。大学はそれぞれの特徴に応じて独自に掲げたミッションを持っており、一律的な指標による数字だけでは必ずしも評価できない。また、定量的評価を行う際には、必ず、ピアレビューも含めた定性的な評価を組み合わせることが必要である。

● 国際情報発信プラットフォームの活用 AAAS EurekAlert! Japan Portalの設立と活用

米国科学振興協会(AAAS)が提供する英日でのプレスリリース配信ポータルサイトの設立(2014年11月始動)。

現在、国内の17大学研究機関が参加。

世界の科学記者登録数 1万2千人超に英文プレスリリースを配信するとともに、日本の科学記者 270名超 にプレスリリースを配信するポータルサイト。



EurekAlert!
AAAS
SEARCH ARCHIVE
ADVANCED SEARCH

HOME NEWS MULTIMEDIA MEETINGS PORTALS ABOUT LOGIN REGISTER

PUBLIC RELEASE: 13 JUN 2015
To be sperm, or not to be sperm?
Discovery of the genetic switch that determines germ cell fate
NATIONAL INSTITUTES OF NATURAL SCIENCES

IMAGE: THIS IMAGE SHOWS YOUNG MEDAKA BORN USING NORMAL EGGS AND SPERM FROM FEMALE FISH LACKING FUNCTIONAL FOULX GENES. [View more](#)

CREDIT: NATIONAL INSTITUTE FOR BASIC BIOLOGY

This news release is available in Japanese.

Researchers in Japan have found, for the first time in vertebrates, a genetic switch that determines whether germ cells become sperm or eggs. The gene is named *foxl2*, and has been identified using a small fish called medaka (*Oryzias latipes*). In medaka without the gene's functionality, surprisingly, sperm are produced in the ovaries of females. The sperm that are produced function normally, and have been confirmed to produce normal offspring. These results will be announced in the journal *Science* through Science Express the online pre-print version on June 11th.

Dr. Yoshya Nishimura, Associate Professor, National Institute for Basic Biology, in collaboration with Dr. Satoru Kobayashi of the Okazaki Institute for Integrative Biosciences and through joint research with Kyoto University, Dr. Makiko Sugiura and Dr. Yusaku Ohkawa, revealed that the *foxl2* gene works in the germ cells of females "to suppress differentiation into sperm".

In females lacking functional *foxl2* genes, the small fish's body appearance is still totally female, however, a large number of sperm are formed in the ovaries, and a small number of eggs are formed at the same time.

Media Contact:
NIH's Office of Public Relations
press@nih.gov
<http://www.nih.gov/ghr/>

More on this News Release

To be sperm, or not to be sperm?
JOURNAL:
SCIENCE

KEYWORDS

BIOLOGY CELL BIOLOGY
DEVELOPMENTAL/REPRODUCTIVE BIOLOGY

TRANSLATIONS

日本語に翻訳

MULTIMEDIA

Young Medaka Born Using Normal Eggs and Sperm
NIH/AAAS

Yoshya Nishimura, National Institute for Basic Biology
NIH/AAAS

Female Medaka Lacking Foulx Genes Show a Surprising Male Body
NIH/AAAS

More in Biology

NIH reports interest and widespread gene sharing
NATIONAL INSTITUTE OF HEALTH

● カンファレンス(勉強会)の開催 (TF等に関連するテーマに関して勉強会を開催)

カンファレンス、勉強会等	日時	講師	参加人数
国際的な研究評価 Research Assessmentに 関する勉強会	平成26 年10月 24日	<ul style="list-style-type: none"> ・David Sweeney(英国高等教育財政審議会 研究、教育、知識移転部長) ・合田哲雄(文部科学省 研究振興局学術研究助成課長) ・山本進一(国立大学法人岡山大学 理事・副学長) ・Caroline Benton(国立大学法人筑波大学副学長(国際担当)) ・村山斉(東京大学カブリ数物連携宇宙研究機構 機構長／カリフォルニア大学バークレイ校マックアダムス冠教授／ローレンス・バークレイ国立研究所上級研究員) 	約 100 人
平成26年度第1回カンファ レンス「世界大学ランキン グと国際情報発信につい て」	平成26 年12月 17日	<ul style="list-style-type: none"> ・Mandy Mok(Qs Asia社最高経営責任者(CEO)) ・福崎一郎(エルゼビア社リージョナルディレクター) ・EUREXASS 	60人
平成26年度第2回カンファ レンス「研究インパクトと大 学プロファイリングについ て」	平成27 年2月2 日	<ul style="list-style-type: none"> ・林和弘(文部科学省 科学技術・学術政策研究所科学技術動向研究センター上席研究官) ・宮入暢子(ネイチャー・ジャパン株式会社コンサルタント／アナリスト) 	約40 人
平成27年度第1回カンファ レンス「EurekAlert!を例と した国際科学広報の効果的 なあり方について」	平成27 年5月29 日	<ul style="list-style-type: none"> ・Brian Lin(AAAS EurekAlert!担当マネジャー) ・高祖歩美(東京大学特任研究員) ・Euan McKay(東京大学特任研究員) ・名取薫(沖縄科学技術大学院大学 コミュニケーション・広報ディビジョン・メディアセクションマネージャー) ・三代川典史(広島大学シニアURA) ・森田洋平(沖縄科学技術大学院大学准副学長) ・角林元子(ResearchSEA日本特派員) ・David H Kornhauser(京都大学国際・広報担当シニアURA) 	約60 人
平成27年度第2回カンファ レンス「大学ランキング指 標の更なる理解とあるべき 研究機関の対応について」	平成27 年9月25 日	<ul style="list-style-type: none"> ・山本進一(岡山大学研究担当理事・副学長) ・調麻佐志(東京工業大学大学院理工学研究科准教授) ・Duncan Ross (Times Higher Education (THE) Data and Analytics部長) 	約30 人
平成28年度第1回大学研 究力強化ネットワーク・カン ファレンス「国際基準の大 学評価の在り方を考える」	平成28 年6月2 日	<ul style="list-style-type: none"> ・山本進一(岡山大学研究担当理事・副学長) ・林隆之(大学改革支援・学位授与機構研究開発部教授) ・モハメッド・アイサティ(M'hamed Aisati)(エルゼビア社コンテンツ分析ディレクター) 	約40 人

<お問合せ>

- ・タスクフォース活動やカンファレンスへの参加
- ・情報配信の希望(メーリングリストへの登録)

office@runetwork.jp